第６分科会　社会形成能力

研究課題

社会形成能力の育成を目指す教育課程の編成と校長の在り方

Ⅰ　趣　　旨

東日本大震災や豪雨等により被災地においては，子どもたちが率先してボランティア活動を手伝ったり被災住民を励ます支援活動を行ったりする姿が多く見られた。

校長は，これからの社会を生きる子どもたちにしなやかな知性と豊かな創造性，豊かな人間性を育むとともに，子どもたちが自己の置かれている状況を受け止め，他者と協力して社会の様々な活動に参画し，社会形成能力の基礎を身に付けられるようにしていかなければならない。

そのためには，学校は，子どもたちが考え行動するプロセスを重視し，地域の特色を生かした豊かな体験活動をさらに積極的に取り入れていく必要がある。視点としては，社会体験活動を教育課程に位置付け，子どもたちに多様な地域社会の課題に触れさせ，その解決のために地域で一定の役割を担わせることにより社会の一員としての自覚や自発性を身に付けさせていくことが考えられる。

本分科会では，校長のリーダーシップのもと，将来の社会を形成する役割を担う子どもたちに，各教科等で身に付けた知識や技能等をもとに，より良い社会の形成に向け，主体性を持って社会の活動に積極的に参画し，課題を解決していく力や態度を養うための具体的方法を明らかにする。

Ⅱ　研究発表

1　研究発表

「子どもの生きる力を育み将来にわたって地域を支える人を育む，地域の環境を生かした体験活動を軸に据えた教育活動を展開するために」

根室地区　中標津町立西竹小学校　横山　裕充

2　研究の概要

子どもが主体的に学ぶ「学習」活動の充実であり，中でも大切なのは，地域の教育活動資源としての環境，特に，自然環境である。「子どもたちは，自然体験により勉強への意欲が増加する（特に小学生）」からである。子どもが「主体的に」学び続けるには，「意欲」は不可欠である。また，「子どもの頃の自然体験の豊富な大人ほどやる気や生きがいをもっている人が多い」ことも明らかになっている。

子ども時代になすべき大切なことは，子ども一人一人のアイデンティティーの確立のための素地をつくることである。前述の自然体験が大人になってからのやる気や生きがいにつながるように，子ども時代に自分のよさがわかる，自信をもつなどの経験をすることは，生涯に渡る重要な要素になると考えている。

3　研究課題を究明する視点

(1)　自立した社会人を育成するための教育課程の編成・実施・評価・改善

①　キャリア教育の全体計画の作成

②　道徳的な学び

③　アイデンティティーの確立

(2)　社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造

①　体験活動を軸にした年間プログラムの作成

②　地域との関わり

4　まとめ

(1)　教育目標の実現に向けて

体験活動は学校の教育活動にとって必要不可欠である。ただし，地域の教育資源を把握し，どの様な視点をもって教育活動に生かすかについては，校長のリーダーシップが問われる。

(2)　社会に貢献する力の育成を目指す教育活動の創造

地域の環境を生かした体験活動を軸にすえた教育活動の実践は取組の具体性から，当地域の特徴である若い教員集団でも仮説検証しやすいなど取り組み易く，

また，積極的に学校運営に参画できるという成果を得た。

ただし，これが大規模校であるならば，さらに工夫が必要であるとともに，都市部ほど良好な自然環境などの教育資源を見つけることが難しいなど，課題もある。

Ⅲ　研究協議

1　全体協議について

(1) 研究発表に対して

○　自尊感情を数値化することを初めて見させてもらった。クオリティーオブライフの調査項目はどういうものなのか？時間はどれくらいかかるか。

○　ＣＲＴの結果が年々高くなってきた要因はどんなことか。

○　学年別プログラムはどういう構成でできているのか。

(2) 趣旨説明に対して

○　社会形成能力分科会が新設されたが，13分科会のキャリア教育とどこが違うのか。

○　あえてキャリア教育と切り離して第６分科会が置かれた意義はどこにあるのだろうか。

○　用語について吟味してみる必要はないのか。日本の根幹をなすものの位置付けとして第６分科会が設定されたと思うが，その経緯を改めて説明してほしい。

2　グループ協議から

１グループ

今日の発表を受けて，各学校において子どもたちが人間づくり，地域・自然・人との関わり体験活動を通して地域に還元していき，地域のよさ，人と人のふれあいのよさを感じながら社会形成能力が身に付いていくことが大切であると感じた。しかし，まだまだ分からない事がある。

子どもたちがいろいろな活動ができ，自分のよさを見つけるだけでなく，そこで関わってる地域と一緒に活動し，友達，相手に対しても肯定する感情を育てていくために，教育活動を見直していく。

２グループ

視点１　子どもたちにコミュニケーション能力，社会形成能力，人間関係力，自己有用感を高めることを学校経営の中心に位置付けることが大切である。そして，こういう視点により，キャリア教育という範疇の中に社会形成能力があるのではないか。社会形成能力のとらえかたを実践の中ではっきりさせていく必要がある。

視点２　社会形成能力をどう教育活動に入れていくか。例えば，地域教材発掘，地域の偉人伝，縦わり班，異世代交流などを通して社会形成能力を育てるとともに，その中で自分が存在している自己有用感を持たせる。

３グループ

参加者全員が社会形成能力とは何だろうか。キャリア教育の中から社会形成能力だけ取り上げて話し合うのはどうなんだろうと感じているのではないか。

人間関係力，課題をよりよく解決していく能力など，いろんな力をしっかり押さえていくことが必要だ。学校が地域の中にあるので，地域コミュニティーとの関わり考えていく必要がある。また，現在の子どもたち・学校の置かれている状況，そういうところからの社会形成能力の養成というものもあるのではないか。

４グループ

視点１　人として，人や社会ものと関わる基礎的なこと，挨拶など当たり前のことが当たり前にできなくなってきている。

行動様式をしっかり子どもたちに身に付けさせる。人間として生きていく上での根っことなる部分を小学校で身に付けていくことが必要だ。子どもや保護者との関係の中で当たり前にできなくなってきている背景がある。

視点２　社会に出て，ふと思いをはせられるような教育活動，体験的な活動を子どもたちに身に付けさせる。新しいものではなく，今あるもので培われていく能力が社会形成能力につながる。

５グループ

視点１　社会形成能力を育てるために，学校で何をすればよいか。社会貢献，体験活動，自分ってすごいなと感じたり，あこがれから夢をもったりする経験，町内会での交流，地域の人との関わり，自分を見つめ直すなど，全てのことを網羅している分科会ではないか。

６グループ

社会をしっかりと担う子の育成を小学校で行うことが必要ではないか。横山校長の発表にもあるように新しいものよりも今あるものを洗い出し，それをうまく使うことが大切である。子どもたちに夢や目標をもたせることも重要なのではないか。

７グループ

これまでも教科や総合でやってきたことである。体験活動を地域の中で特色を生かして行うことが大切である。新しいものを行うのではなく，今あるものをもう一度見直して行い，若い先生を育てよう。

社会形成能力って……どう思う？

先生にも体験が必要！！
校長として　若い先生を育てる

Ⅳ　ま　と　め

＜分科会協議のまとめ＞

本分科会では，中標津町立西竹小学校　横山校長の研究発表をもとに，「社会形成能力の育成の視点を踏まえた教育活動を創造するための校長の果たすべき役割と指導性」と、子どもたちに自己の役割，働くことや夢をもつことの大切さを理解させ，地域社会への興味関心の幅を広げさせることや，互いの個性や人との絆を大切にする社会づくりに貢献しようとする「自立した社会人として生きていくための基礎となる力を付けさせる教育課程の編成・実施・評価・改善をしていくための校長の果たすべき役割と指導性」について協議を行ってきた。

具体的には，

・「社会形成能力」をどのようにとらえるのか。
・「社会形成能力」の育成を推進する教育課程をどのように編成・実施していくのか。

を中心に，協議が行われた。

初めに，・「社会形成能力」をどのようにとらえるのか，についてであるが，趣旨説明の中で，「社会形成能力」とは，「多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる力である。」という説明をした。

それを受けて，具体的に「どのような教育活動で見られる，どんな力が社会形成能力の育成へ向かっていくのか」について，各グループで協議していただいた。

その結果，「社会形成能力の育成に向かうもの」として，具体的に様々な教育活動を通して育成される力をキーワードとして出していただき，整理した。

「社会形成能力」を育成する教育課程を編成・実施していくには，提言発表のように，「社会形成能力」育成のために何か新しいことをやるのではなく，今やっている教育活動を「社会形成能力」育成のフィルターを通して見つめ直し，整理してみるという手法によって，教育課程編成に当たるのがよいのではないか，という意見が多かった。

また，今やっている教育活動の指導計画を社会形成能力の観点から整理して教育課程編成に当たるという考え方が多かった。いずれにしても，どの学年も「他者へ関わる，集団に関わる」ことを原点とすべきことであると思う。

２本の協議の柱を通して今後小学校で進められる「社会形成能力」の育成に向けて，校長が果たす役割や視点について大変貴重な交流がなされたと考えている。

＜本日の協議から＞

新しい研究主題のもとにできた新しい分科会のため，本分科会の意義や役割等について分科会開始当初は，キャリア教育との違いなど，戸惑いも見られたが，提言発表や協議の視点に基づいたグループ協議・全体協議を通して，今後本分科会の進むべき方向性が明らかになり，一歩前進したと考えている。

そして課題として，「社会形成能力の育成」は，今後学校において求められる重要な教育課題であり，今日の協議を踏まえ，各学校の実践を通してより具体的な課題を交流し合い，解決に向けた方策を明らかにしていくことが必要であると考える。

「第６分科会に参加して」

別海町立上西春別小学校　**粥　川　敏　宏**

本分科会の課題は今年度から新設された研究課題である。これからの社会を生きる子どもたちは，しなやかな知性と豊かな創造性，豊かな人間性を育むとともに自己の置かれている状況を受け止め，他者と協力して社会の様々な活動に参画し，今後の社会を積極的に形成していく力や態度を養うことが求められる。

提言では，次の内容で根室管内の実践が発表された。

①身に付けさせたい力や態度を明らかにしてキャリア教育の全体計画を作成することが必須であり，その中に「道徳教育の推進」「アイデンティティーの確立」などの観点をもつことを大切にすること。

②地域の特性，地域の教育資源を生かした体験活動を重視することによって，地域との関わりを深め，地域に発信し，地域に貢献しようとする意欲を高めるとともに，自己肯定感や自尊感情を醸成していくことが大切であること。

全体協議では「社会形成能力」をどのようにとらえるのか。どのような教育活動を通して育成し，教育課程を編成・実施していくのか協議され，今後，この新たな課題に対し更に研究を深めていく必要を確認した。